

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-152827

(43) 公開日 平成7年(1995)6月16日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 17/60		8724-5L	G 0 6 F 15/ 21	Z

審査請求 未請求 請求項の数10 F D (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平5-320869

(22) 出願日 平成5年(1993)11月29日

(71) 出願人 593229619

永田 道雄

東京都中野区大和町4丁目40番12号

(72) 発明者 永田 道雄

東京都中野区大和町4丁目40番12号

(74) 代理人 弁理士 役 昌明

(54) 【発明の名称】 個人データ預託・管理・運用方式

(57) 【要約】

【目的】 各個人に係わる各種のデータをプライバシーの秘密保持の程度に応じて適性に管理し、運用して、日常生活を安心して営むこと。

【構成】 本人であることを確認する本人確認手段と、この本人確認手段により本人であることが確認できた際に、個人に係わるデータの登録、修正、追加、出力を許容する入力手段と、入力された各データをファイル化する手段と、ファイル化された個人に係わる各データを格納する記憶手段と、この記憶手段に格納されているデータを出力する出力手段とを具備している。また、登録、修正、追加を、分割された一単位 of データを記入する余白を有し、数値を記載した区分よりなるデータ・シートの余白にデータを記入したのち各区分ごとに裁断し、数値および記入されたデータを入力する入力手段と、コンピュータにより数値に基づいて入力されたデータを整理・編集して各個人ごとのデータをファイル化する手段により実施することができる。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 本人であることを確認する本人確認手段と、該本人確認手段により本人であることが確認できた際に、個人に係わるデータの登録、修正、追加、出力を許容する入力手段と、上記各データをファイル化する手段と、ファイル化された個人に係わる上記データを格納する記憶手段と、該記憶手段に格納されているデータを出力する出力手段とを具備することを特徴とする個人データ預託・管理・運用方式。

【請求項 2】 個人に係わるデータは、期日管理を要するデータおよび期日管理を要しないデータであることを特徴とする請求項 1 に記載の個人データ預託・管理・運用方式。

【請求項 3】 個人に係わるデータには、告知先を含むことを特徴とする請求項 1 に記載の個人データ預託・管理・運用方式。

【請求項 4】 格納されたデータのうち、期日管理を要するデータの告知時期を判定して告知すべきデータを出力する手段を具備することを特徴とする請求項 1 に記載の個人データ預託・管理・運用方式。

【請求項 5】 分割された一単位のデータを記入する余白を有し、数値を記載した区分よりなるデータ・シートの上記余白にデータを記入したのち、上記区分ごとに裁断し、数値および記入されたデータを入力する入力手段と、コンピュータにより数値に基づいて入力されたデータを整理・編集して各個人ごとのデータをファイル化する手段と、ファイル化された個人に係わる上記データを格納する記憶手段と、該記憶手段に格納されているデータを出力する出力手段とを具備することを特徴とする個人データ預託・管理・運用方式。

【請求項 6】 数値はスクランブルされた乱数であることを特徴とする請求項 5 に記載の個人データ預託・管理・運用方式。

【請求項 7】 数値はバーコードで表示されていることを特徴とする請求項 5 に記載の個人データ預託・管理・運用方式。

【請求項 8】 個人に係わるデータは、期日管理を要するデータおよび期日管理を要しないデータであることを特徴とする請求項 4 に記載の個人データ預託・管理・運用方式。

【請求項 9】 個人に係わるデータには、告知先を含むことを特徴とする請求項 5 に記載の個人データ預託・管理・運用方式。

【請求項 10】 格納されたデータのうち、期日管理を要するデータの告知時期を判定して告知すべきデータを出力する手段を具備することを特徴とする請求項 5 に記載の個人データ預託・管理・運用方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、各個人が預託したプ

ライバシーに係わる各種のデータを秘密保持の程度に応じて管理し、運用する個人データ預託・管理・運用方式に関する。

【0002】

【従来の技術】 各人が日常生活を営む際に、外界から情報を受け入れるとともに、自己に係わる新たに発生した情報を取り入れたり、すでに取り入れた過去の情報を修正したり破棄している。

【0003】 各個人に係わる情報には、(1) 住所、氏名のように他人に知られても差し支えない情報、(2) 運転免許証の更新期限、パスポートの更新期限のように、予め他人に知らせておき、管理して期限に近づくと告知して欲しい情報、(3) 本人・家族が受取人になっている生命保険、損害保険の加入状況、個人的な貸借関係、権利や義務を伴う個人的契約、財産（例えば、不動産、有価証券、銀行預金など）に関する情報、本人が取得している特許やノウハウに関する権利情報のように、万一の場合に家族に知らせたい情報、(4) 弁護士へ依頼している事項（例えば、認知していない子供への財産分与に関する事項）、企業の後継者に伝えたい機密事項やノウハウ、私的な団体の引継事項、緊急時の連絡先などのように、万一の場合に関係者に知らせたい情報、(5) へそくりの保管状況、誰にも知らされていない者を受取人とする生命保険の加入状況のように本人以外、何人にも知られたくない情報、など、多くの情報があり、このような情報は、自分自身で管理し、運用して行かなければならず、さらに、死後において遺族または関係者に伝えなければならない情報も存在する。

【0004】 例えば、誰にも知らされていない者を受取人とする生命保険に加入していた場合、本人が死亡すると、遺言状などに記載されていない限り、その生命保険は、誰も受け取ることができない。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 このように、各個人に係わるデータ（情報）は、多岐、多様にわたって存在するが、プライバシーの保護に重点が置かれるあまり、各個人のデータを蓄積しても、特定の目的以外に如何なるデータも活用することができなかった。

【0006】 また、各個人に係わるデータは、自分自身で管理しきれないほど多種、多岐、多様にわたるようになり、その管理・運用を失念したり誤ると、その回復に多くの労力を要し、最悪の場合には、回復できないこともあった。

【0007】 そこで、各個人に係わる各種のデータをプライバシーの秘密保持の程度に応じて適性に管理し、運用する信頼できる機関の出現が望まれている。

【0008】

【課題を解決するための手段】 この発明の個人データ預託・管理・運用方式は、本人であることを確認する本人確認手段と、この本人確認手段により本人であることが

3

確認できた際に、個人に係わるデータの登録、修正、追加、出力を許容する入力手段と、入力された各データをファイル化する手段と、ファイル化された個人に係わる各データを格納する記憶手段と、この記憶手段に格納されているデータを出力する出力手段とを具備している。

【0009】また、この発明の個人データ預託・管理・運用方式は、分割された一単位のデータを記入する余白を有し、数値を記載した区分よりなるデータ・シートの上記余白にデータを記入したのち上記区分ごとに裁断し、数値および記入されたデータを入力する入力手段と、コンピュータにより数値に基づいて入力されたデータを整理・編集して各個人ごとのデータをファイル化する手段と、ファイル化された個人に係わる各データを格納する記憶手段と、この記憶手段に格納されているデータを出力する出力手段とを具備することもできる。

【0010】

【実施例】各個人に係わる各種のデータは、プライバシーの秘密保持の程度に応じて、各データを管理レベル別に分類することができ、管理レベルに応じて、(a)データに対するアクセス条件と、(b)データ内容を告知する対象とが相違する。

【0011】(a)データに対するアクセス条件としては、本人のみ、本人から許可または委任を受けたことを確認できた人、本人が死亡した場合に遺族であることを確認できた人に分類でき、(b)データ内容を告知する対象としては、本人と、本人が指定した特定の人に分類することができる。

【0012】この発明の個人データ預託・管理・運用方式においては、各個人のデータを管理レベル別に分類して蓄積し、蓄積したデータを、告知すべき時期に告知すべき内容に応じて検索し、該当対象者に告知するように構成したものである。

【0013】この発明の個人データ預託・管理・運用方式において使用する機器は、図1に示すように、CPU11、管理レベル別にデータを格納する記憶装置12、通信制御装置13を有するホスト・コンピュータ1と、第1の端末装置2とから成り、第1の端末装置2には、データを入力するキーボードなどの入力装置21と、データを出して表示する表示装置22と、必要なデータを印字して出力する印字装置24と、識別カード3を接続する識別カード接続端子23を備えている。

【0014】さらに、ホスト・コンピュータ1は、通信制御装置13および公衆回線5を介して第2の端末装置4が接続されており、第2の端末装置4にもデータを入力するキーボードなどの入力装置41と、データを出して表示する表示装置42と、必要なデータを印字して出力する印字装置44と、識別カード接続端子43を備えている。

【0015】これらの識別カード接続端子23、43に接続される識別カード3には、各個人ごとに割り当てられた

4

ID番号を発生するID番号発生回路、データにスクランブルをかけるスクランブル回路、スクランブルされたデータをデスクランブルするデスクランブル回路の機能を兼ね備えた回路を具備している。

【0016】識別カード3には、例えば、図2に示すように、入力信号と同期したクロック・パルスによりデータをシフトするシフトレジスタ31と、このシフトレジスタ31の途中段と終段の出力との論理積を得るアンド回路32や、論理和を得るノア回路33などのよって循環させるスクランブル回路またはデスクランブル回路を有しており、入力端子34より任意の符号を入力したとき、このスクランブル回路またはデスクランブル回路を経由することにより別の符号に変換して出力端子35より出力する。各個人ごとにスクランブル回路の構成を変えておくことにより、任意の符号を入力して各個人(ID番号)を識別することができる。

【0017】なお、スクランブル回路またはデスクランブル回路を有する識別カード3は、必ずしもこのようなハードウェアに限ることなく、CPUを内蔵させてソフトウェアにより、入力端子34より任意の符号を入力したとき、出力端子35より識別用の変換された他の符号を発生させてもよいのである。

【0018】端末装置2または端末装置4よりホスト・コンピュータ1へ個人のデータを伝送して蓄積、修正/追加を行なう際にも、識別カード3のスクランブル回路によって伝送するデータにスクランブルをかけることができ、また、ホスト・コンピュータ1より端末装置2または端末装置4へ伝送されてきたデータをデスクランブルすることができる。

【0019】したがって、ホスト・コンピュータ1のデータを格納する記憶装置12には、スクランブルをかけた状態でデータを格納することができる。

【0020】特に、プライバシーの秘密保持のために、個室を設けて、入力装置21と、表示装置22と、識別カード接続端子23とより成る端末装置2を設置し、各個人が、個室に入って、新規データの登録を行なったり、既登録データを読み出して確認し、必要に応じて修正/追加を行なうように構成されている。

【0021】入力装置21のキーボードを操作することができない人の場合には、個室において、識別カード接続端子23に識別カード3を挿し込むだけで、個人のデータを表示装置22に表示して確認することができ、また、図3に示すデータ・シートを使用して、プライバシーの秘密を保持しながら、新規データの登録、既登録データの修正/追加を行なうことができる。

【0022】データ・シートは、図3に示すように、各行または各項目ごと分割されたデータを記入すべき余白およびスクランブルされた乱数を記載した区分よりなるもので、乱数は、シートの各区分ごとに特定の関係を持たせたものであり、記入されたデータ・シートは、各区

分ごとに裁断し、他の個人の裁断されたデータ・シートと混ぜ合わせたのち、乱数と記入されたデータとを専門のパナーチャーによって入力させ、関係付けられた乱数に基づいて、コンピュータによりデータを整理・編集し、各個人ごとのデータをファイル化して記憶装置12に格納する。

【0023】次に、個人データの格納、管理、運用の操作をフローチャートの基づいて説明する。

【0024】（本人が直接行なう個人データの新規格納）図6のフローチャートに示すように、本人が直接、

端末装置2まで訪問し、入力装置21のキーボードを操作して、新規にデータの登録を行なう場合には、表示装置22において図4に示す画面が表示されているので、

ステップ1：識別カード接続端子23に識別カード3が接続されると、ホスト・コンピュータ1より識別用の符号を端末装置2へ伝送する。この識別用の符号を識別カード3のスクランブル回路を通過させると、別の符号が再形成される。この再形成された符号をホスト・コンピュータ1へ返送すると、ホスト・コンピュータ1において、返送されてきた符号より識別カード3の持ち主を判定して、持ち主のID番号を端末装置2へ伝送する。

【0025】ステップ2：端末装置2の表示装置22にID番号が表示され、パスワードの入力を要求するので、

ステップ3：個人のパスワードを入力する。

【0026】ステップ4：「新規データの登録」、「データの修正/追加」、「照会」の何れか1つを選択する画面が表示されるので、

ステップ5：「新規データの登録」の（1）を選択すると、図5に示すデータ入力画面が表示されるので、

ステップ6：登録すべきデータ（項目、内容、金額、期日、告知先）とともに、管理レベル（秘密保持の程度A、B、C）を入力する。

【0027】ステップ7：ホスト・コンピュータ1において、ステップ6で入力されたデータを管理レベルごとにファイル化し、

ステップ8：ID番号をキーにして記憶装置12へ格納する。

【0028】（データ・シートによる個人データの新規格納）本人が、入力装置21のキーボードを操作して、新規にデータの登録を行なうことができない場合には、各行または各項目ごとに分割されたデータを記入すべき余白およびスクランブルされた乱数を記載した区分よりなる図3に示すデータ・シートを使用してデータの登録を行なう。

【0029】一連の区分よりなるデータ・シートに予め印字されている乱数は、一連のデータ・シートを単位として特定の関係を持たせたものであり、コンピュータで各乱数を処理してデスクランブルすることによりID番号を同じくするデータに編集することができる。

【0030】図7のフローチャートに示すように、

ステップ1：データ・シートの各区分に登録すべきデータ（項目、内容、金額、期日、告知先）とともに、管理レベルおよび新規登録である符号を記入し、

ステップ2：乱数が印字されている区分を単位として、各行または項目ごとにデータ・シートを裁断し、

ステップ3：他の個人の裁断されたデータ・シートと混ぜ合わせたのち、乱数と記入された内容をパナーチャーによって入力させ、

ステップ4：コンピュータによって、関係付けられた乱数に基づいてデータを整理・編集し、各個人ごとのデータをファイル化し、

ステップ5：管理レベルごとにID番号をキーにしてデータを記憶装置12へ格納する。

【0031】（本人が直接行なう個人データの修正/追加）図8のフローチャートに示すように、本人が直接、端末装置2のキーボード21を操作して、既登録のデータの修正やデータの追加を行なう場合には、表示装置22において図4に示す画面が表示されているので、

ステップ1：識別カード接続端子23に識別カード3を接続すると、

ステップ2：ID番号が表示され、パスワードの入力を要求するので、

ステップ3：個人のパスワードを入力する。

【0032】ステップ4：「新規データの登録」、「データの照会」、「データの修正/追加」の何れか1つを選択する画面が表示されるので、

ステップ5：「データの修正/追加」（3）を選択する。

【0033】ステップ6：表示装置22の画面に既登録データが表示されるので、カーソルを修正したい部分へ移動させてデータの修正または追加を行ない、

ステップ7：データの修正または追加を終了すると、修正または追加されたデータを管理レベルごとにファイル化し、

ステップ8：記憶装置12へ再格納する。

【0034】（データ・シートによる個人データの修正/追加）本人が、キーボードを操作して、データの修正/追加を行なうことができない場合には、各行または各項目ごと分割に分割されたデータを記入すべき余白およびスクランブルされた乱数を記載した区分よりなる図3に示すデータ・シートを使用してデータの修正/追加を行なう。この際、識別カード接続端子23に識別カード3を接続し、パスワードを入力して表示装置22の画面に既登録データを表示させるデータの照会を行なって、修正/追加すべきデータを確認してもよいのである。

【0035】図9のフローチャートに示すように、

ステップ1：データ・シートに修正/追加すべきデータ（項目、内容、金額、期日、告知先）とともに、管理レベルおよび修正/追加である符号（3）を記入し、

ステップ2：乱数が印字されている区画を単位として、

7

各行または各項目ごとに裁断し、

ステップ3：他の個人の裁断されたデータ・シートと混ぜ合わせたのち、乱数と記入された内容を専門のパンチャーによって入力させ、

ステップ4：コンピュータによって、関係付けられた乱数に基づいてデータを整理・編集し、各個人ごとのデータをファイル化し、

ステップ5：管理レベルごとにID番号をキーにして修正／追加されたデータを記憶装置12へ再格納する。

【0036】（公衆回線網等を介するデータの照会、修正／追加）図10のフローチャートに示すように、

ステップ1：第2の端末装置4の識別カード接続端子43に識別カード3を挿入し、通信制御装置51、12および公衆回線網5を介して、ホスト・コンピュータ1に接続と、

ステップ2：表示装置42の画面に、図4に示すようにID番号が表示され、パスワードの入力を要求するので、

ステップ3：個人のパスワードを入力する。

【0037】ステップ4：照会に必要なアクセス条件を満たし、管理レベルの制限条件を満たすと、

ステップ5：記憶装置12より管理レベルに応じた登録データを読み出して第2の端末装置4に伝送する。

【0038】ステップ6：第2の端末装置4においては、伝送されて来たデータを印字装置44で印字させるか、表示装置42に表示させて照会させる。

【0039】ステップ7：表示されたデータの修正／追加を希望する場合には、

ステップ8：図4に示す画面を呼び出して、「データの修正／追加」を選択する。

【0040】ステップ9：表示装置42の画面に既登録データが表示されるので、カーソルを修正したい部分へ移動させてデータの修正または追加を行ない、

ステップ10：データの修正または追加を終了すると、ホスト・コンピュータ1へ伝送し、修正または追加されたデータを管理レベルごとにファイル化し、

ステップ11：記憶装置12へ再格納する。

【0041】（本人が直接訪問して行なう照会）図11のフローチャートに示すように、本人が直接、端末装置2まで訪問し、入力装置21のキーボードを操作して、登録データの照会を行なう場合には、表示装置22において図4に示す画面が表示されているので、

ステップ1：識別カード接続端子23に識別カード3を接続すると、

ステップ2：ID番号が表示され、パスワードの入力を要求するので、

ステップ3：個人のパスワードを入力する。

【0042】ステップ4：「新規データの登録」、「データの照会」、「データの修正／追加」の何れか1つを選択する画面が表示されるので、

ステップ5：「照会」を選択すると、

8

ステップ6：登録されているデータ（項目、内容、金額、期日、告知先）が表示装置22に出力される。ハードコピーを希望する場合には、出力されたデータを印字装置24で印字させる。

【0043】（告知）記憶装置12に格納されている個人に係わる各種データのうち、管理すべき期日を、その期日の一定期間前に検索して、該当するデータが存在すると、告知すべきデータと告知先を印字装置14より出力させ、指定された告知先へ発送する。

【0044】（その他の実施例）以上で説明した実施例においては、データにスクランブルをかけて記憶装置12に格納しているが、十分に秘密を保持し得る場合には、スクランブルをかけることなく、データをそのまま格納してもよいのである。

【0045】

【発明の効果】以上の実施例に基づく説明から明らかなように、この発明の個人データ預託・管理・運用方式によると、各個人に係わる各種のデータをプライバシーの秘密保持の程度に応じて適性に管理し、運用することができるので、日常生活を安心して営むことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の個人データ預託・管理・運用方式に使用するデータ処理装置の一実施例を示すブロック図、

【図2】図1の装置に接続する識別カードの一例を示すブロック図、

【図3】データを入力する際に使用するデータ・シートの一例を示す図、

【図4】図1の装置の表示装置に表示される画面の一例を示す図、

【図5】図1の装置の表示装置に表示される他の画面の一例を示す図、

【図6】利用者自身が端末装置を操作して新規データを登録する手順を示すフローチャート、

【図7】利用者自身がデータ・シートに記入して新規データを登録する手順を示すフローチャート、

【図8】利用者自身が端末装置を操作して既登録データを修正／追加を行なう手順を示すフローチャート、

【図9】利用者自身がデータ・シートに記入して既登録データを修正／追加を行なう手順を示すフローチャート、

【図10】公衆回線網を介するデータの照会、修正／追加を行なう手順を示すフローチャート、

【図11】利用者自身が端末装置において既登録データを照会する手順を示すフローチャートである。

【符号の説明】

1 ホストコンピュータ

2、4 端末装置

12、51 通信制御装置

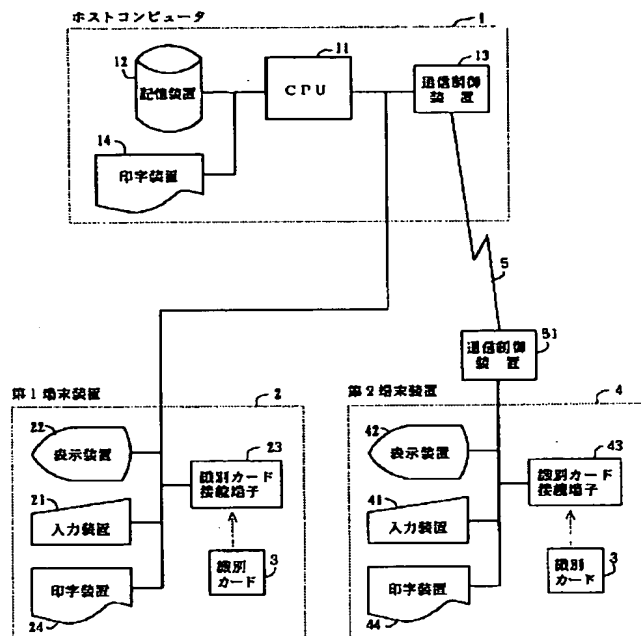
21、41 入力装置

22、42 表示装置

23、43 識別カード接続端子

24、44 印字装置

【図 1】



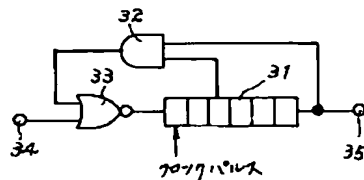
【図 3】

ID番号 = 300000000000		記入日 年 月 日	
氏名	生年月日	TEL	
本籍	TEL	TEL	
住所	TEL	TEL	
パスワード (暗証番号) = 00000000			
1. 新規のデータ登録、 2. データの照会、 3. データの修正/追加			
乱数 00000000 00000000			
情報の名称 契約書類等の番号 期日			
免許証の更新日 免許証番号 0000年00月00日 期日から0000日前			
告知先の条件	告知先の住所/TEL	管理レベル	
1. 本人のみ		A B C	
2. 本人または家族			
3. その他指定人			
乱数 00000000 00000000			
情報の名称 契約書類等の番号 期日 告知タイミング			
00000000の更新日 0000000000 0000年00月00日 期日から0000日前			
告知先の条件	告知先の住所/TEL	管理レベル	
1. 本人のみ		A B C	
2. 本人または家族			
3. その他指定人			
乱数 00000000 00000000			

3 識別カード

5 公衆回線網

【図 2】



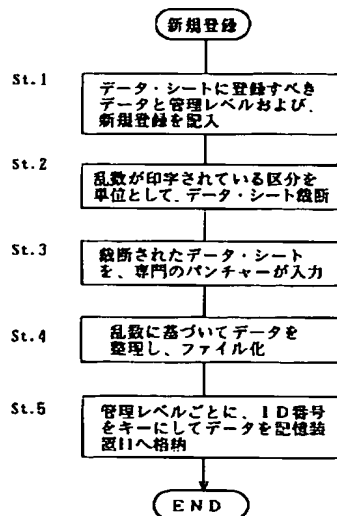
【図 4】

ID番号 = 300000000000	登録日 年 月 日
氏名	生年月日
本籍	TEL
住所	TEL
パスワード (暗証番号) = 00000000	
1. 新規のデータ登録、 2. データの照会、 3. データの修正/追加	
= 0	

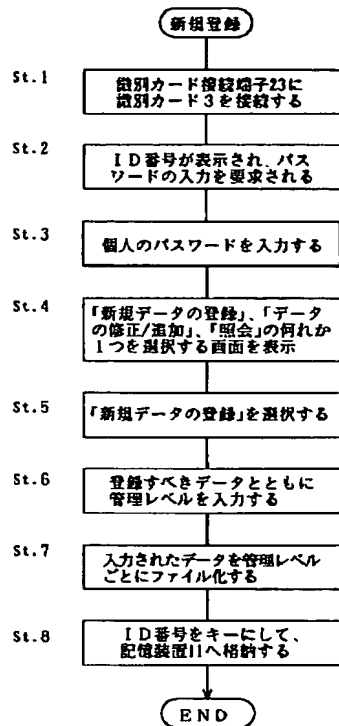
【図 5】

期日管理が必要な情報		
情報の名称	契約書類等の番号	期日
免許証の更新日	免許証番号	0000年00月00日 期日から0000日前
告知先の条件	告知先の住所/TEL	
1. 本人のみ		
2. 本人または家族		
3. その他指定人		
管理レベル	A B C	

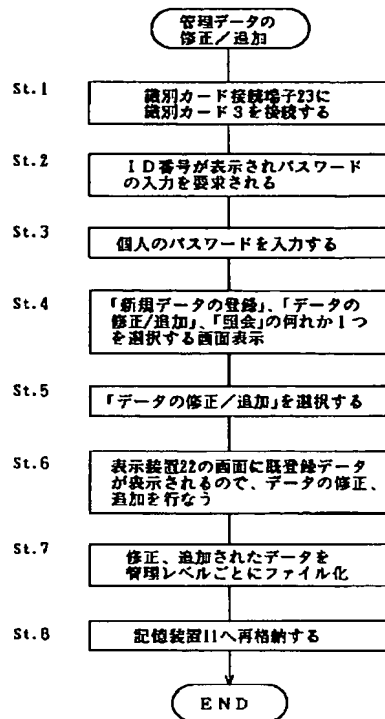
【図 7】



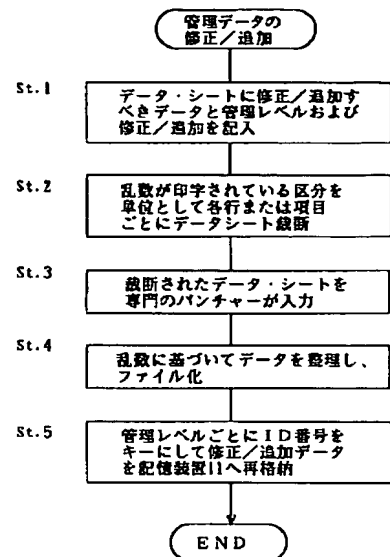
【図6】



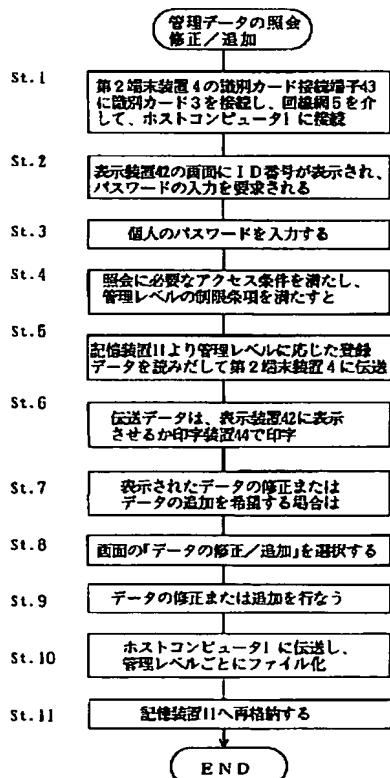
【図8】



【図9】



【図10】



【図11】

